

# モウセンゴケ

*Drosera rotundifolia*

モウセンゴケ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



種  
子  
植  
物

日当たりのよい湿地や湿原に生える多年生の食虫植物。高さ5～10cm。茎はごく短く葉がロゼット状に根生し、葉の表面には粘液を出す腺毛があって、しばしば虫をとらえる。6～8月に花茎を伸ばし、その先に白色の小さな花をつける。北半球の亜寒帯～温帯、日本全国に分布し、県内でも低地から山地まで広く分布するが、個体数は少ない。湿地開発による生育地の消失や水環境の変化による乾燥化で、生育地の消滅や減少が懸念される。

(写真・文:瀬戸屋耕二)

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

**分布域** 北海道、本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
北半球亜寒帯～温帯

**国立・国定公園指定植物** [阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾]